

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①確かな学力の育成に努め、質の高い学びを実現し、生徒が自らの個性・能力を伸張する高い意識を持って学習するカリキュラム・マネジメントを進める。</p> <p>②国際理解教育の推進及びグローバル人材の育成を図り、持続可能な社会の創り手として学び続ける自立した学習者を育成する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等においては生徒が主体的に取り組み、生徒中心の行事となる取組を促進し、他者に影響を与え、学校や社会に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>①確かな学力の育成と質の高い学びを実現する。</p> <p>②生徒自らがグローバルな視点を持ち、持続可能な社会を作り出す意識を育めるような学びを推進していく。</p> <p>③学校行事等で生徒が主体的に取り組み、生徒中心の行事となる取組を促進するとともに、社会にも貢献できる人材を育成する。</p>	<p>①基礎学力の向上を目指し、教科内及び他教科と協働し授業実践を行う。</p> <p>②各科目等でテーマに沿った探究活動を推進し、生徒の向上心を育み、学びの振り返りをより高い目標に結びつけられるよう支援する。</p> <p>③学校行事や日々の生徒活動について、委員会やクラス係などが主体となって活動できるようにする。</p>	<p>①教科会を中心に授業改善の検討を進め、生徒の学力の向上に努めることができたか。</p> <p>②ICT等のツールを活用しながら生徒が主体的に探究学習をし、課題解決方法を考える学びを継続するサイクルづくりができたか。</p> <p>③諸活動について生徒主体の運営をし、次年度につながる体制が確立できたか。</p>	<p>①各教科とも様々な工夫をこらし、生徒の主体的な学びや基礎学力の向上に寄与するべく取り組むことができた。</p> <p>②様々な科目でグループでの協議・討論やプレゼンテーションなどで、探究活動を取り入れた授業を展開し、主体的に学ぶ態度を育むことができた。</p> <p>③学校行事や対外的な行事において、生徒会を中心とした生徒の積極的な参加や、自主的な運営の取組が見られた。</p>	<p>①他教科と協働、教科横断の取組みという点においては取組みがうまく進まず、課題が残っている。</p> <p>②令和8年1月に電子黒板が導入されたが、導入直後ということもあり、その有効活用については課題が残っている。</p>	<p>・丁寧に「考える力」を育てている。様々な指導が教員に求められているが、そのようなスキル教育を教員が十分に受けられているか。現場任せにせず根本的な教員の育成・人事管理改革も必要と考える。</p> <p>・部活動加入率について、環境を整えることで増えることがあれば協力したい。</p> <p>・大学でも体育会系、上下関係がわずらわしい、成果のための努力から避ける傾向。</p> <p>・進路に結び付けをやりたいことを見つけて働きかけをしてはどうか。</p>	<p>①各教科とも様々な工夫をこらし、生徒の主体的な学びや基礎学力の向上に寄与するべく取り組むことができた。教科横断的な取組みが課題である。</p> <p>②様々な科目でグループでの協議・討論やプレゼンテーションなど、探究活動を取り入れた授業を展開し、主体的に学ぶ態度を育むことができた。生徒の活動においても電子黒板の有効活用方法を探っていくのが課題である。</p> <p>③1年を通して行事や対外的行事で多くの生徒の活躍が見られた。特定の生徒に限らず、さまざまな生徒の活躍機会をつくりたい。</p>	<p>①教科横断の授業参観や授業改善研修を実施に取り組んでいく。</p> <p>②電子黒板の有効活用授業事例などの情報を集め、研究していく。</p> <p>③生徒に学校生活にさらなる意欲と関心をもたせることが必要であり、部活動加入率を高めるとともに行事への生徒の意欲的な参加を促す対策を考えたい。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの個性や実情に応じてそのニーズに応え、多様な可能性を伸ばす支援体制の充実を図る。</p> <p>②困難を抱える生徒を支援につなぎ、誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた支援体制の構築を図る。</p> <p>③規範意識を養い、安全・安心な学校生活を保障し、自尊感情や自己効力感を高め、自他を尊重する心を育み、ウェルビーイングの実現を目指す。</p>	<p>①教育相談等の生徒支援体制に重点を置き、生徒の多様性に応え、生徒の可能性を伸ばす支援を行う。</p> <p>②困難を抱える生徒対し、困難の言語化・見える化を図る。生徒の社会的側面から生徒の背景にある困難に対し支援を図る。</p> <p>③規範意識を育成し、道徳的実践力を養う。自他を尊重する心を育み、自尊感情を養う。また、安心で安全な学校生活を送れるよう図る。</p>	<p>①日常より学校や家庭における困り感を相談しやすい体制を整え、信頼関係を構築する。</p> <p>②サポートドック等、困難を抱える生徒をSC・SSWと連携を図り、外部機関等に繋げる。</p> <p>③平穏な社会関係を形成するために自らの考えや方策を身に付け、互いの人格や権利を尊重し、義務や責任を果たせる力を育む。</p>	<p>①相談しやすい体制は整えられたか。生徒、保護者との信頼関係は築けたか。</p> <p>②サポートドックを有効活用できたか。SC・SSWとの連携や外部機関との連携は図れたか。</p> <p>③道徳的規範意識を育成できたか。人格や権利を守り、自尊感情を養えたか。問題行動を未然に防止できたか。</p>	<p>①教育相談C0を各学年に配置することで教育相談体制を整え、週1回の教育相談会議での情報の共有を生徒支援に繋げ、保護者との信頼関係を構築した。</p> <p>②サポートドックを実施することでSC、SSWの協力のもと、悩みを抱える生徒の早期発見や早期支援に繋がった。</p> <p>③HRや学年集会を通して道徳的規範意識を育成し、互いの人格や権利を守り義務や責任を果たせる力を養った。</p>	<p>①保護者からの要望も多岐に渡り、対応に苦慮する場面もあった。管理職や関係職員と連携し、より丁寧な対応を心掛けた。</p> <p>②欠席を重ねる生徒への支援が遅れないように心がける。サポートドックの実施時期を検討するのが課題である。</p> <p>③問題行動を未然に防止できるよう取り組んでいるが、度々問題行動が起きている。</p>	<p>・生徒に対する講演会等、OB・OGで支援できるとも思うので、来年度検討する。</p> <p>・交通安全については、罰則も厳しくなることから、学校でも注意喚起を強めていただきたい。</p>	<p>①教育相談C0を各学年に配置することで教育相談体制を整えたことで、各学年が情報の共有を生徒支援に繋げ、保護者との信頼関係を構築した。</p> <p>②サポートドックを実施しSC、SSWの協力のもと、悩みを抱える生徒の早期発見や早期支援に繋がることができた。</p> <p>③HRや学年集会を通して、学年ごとの道徳的規範意識をそれぞれ育成し、互いの人格や権利を守り、義務や責任を果たせる力を養った。</p>	<p>①保護者からの要望に対して、管理職や関係職員と連携しながらより丁寧な対応を心掛ける。</p> <p>②欠席を重ねる生徒への支援が遅れないように心がける。サポートドックの実施時期を検討する。</p> <p>③交通安全も含めて、生徒の規範意識の醸成に努め、問題行動を未然に防止できるよう、引き続き取り組む。</p>

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	<p>①予測不可能な時代の中でも、活躍することのできる人材の育成を図る。</p> <p>②生徒自らのキャリア形成を意識できる進路活動の充実を図り、より高い進路目標設定が行える指導・支援を推進するための体制を構築する。</p> <p>③将来の自分のキャリアに責任を持ち、生涯にわたって学び続ける学習者としての基盤を培う。</p>	<p>①3年間を見通した進路支援体制を充実させ、主体的な学びに基づく進路活動ができるように支援する。</p> <p>②生徒が長い目で自らの進路を考えるとともに、より高い目標設定が行えるよう、情報提供や学習支援に努める。</p> <p>③広い視野を持ち、社会との関わりという観点で将来を考え、学びを深めていけるように意識付けを行う。</p>	<p>①進路行事等について、必要に応じて内容の改善を図り、生徒の主体的な進路活動を促す。</p> <p>②-1 多様化する進路活動に対応し必要な情報提供を行う。</p> <p>②-2 学習習慣の定着と学力向上に向けて、模擬試験、講習、資格試験等の有効活用を図る。</p> <p>③総合的な探究の時間を通して、社会の様々な分野に関する問題意識を喚起し、自らの進路と結びつけながら課題を解決する力を育成する。</p>	<p>①進路行事等の見直しや内容改善を行うことができたか。</p> <p>②-1 多様化する進路活動に対し必要な情報提供を行うことができたか。</p> <p>②-2 学習習慣の定着と学力向上に向けて、模擬試験、講習、資格試験等が有効活用できたか。</p> <p>③総合的な探究の時間を通して、生徒の問題意識を喚起し、課題解決能力を育成することができたか。</p>	<p>①説明会・講演会等の日程や内容を現状に即して見直した。</p> <p>②-1 生徒や保護者が十分に考えを深めて進路決定できるよう、様々な情報提供を行った。</p> <p>②-2 授業や夏期講習と結びつけるなど模擬試験の有効活用を図った。また進路を見据えての資格取得を推奨した。</p> <p>③生徒の問題意識の喚起と課題解決能力の育成に向けて、探究活動をサポートすることができた。</p>	<p>①次年度も引き続き、情報提供や意識付けに有効な行事のあり方を検討する。</p> <p>②-1 年内入試、特に総合型受験の増加に対応し、一層確実に情報を収集・整理していく必要がある。</p> <p>②-2 各教科と連携してさらに効果的な活用を目指す。</p> <p>③問題意識の喚起に比して問題解決力の育成については不十分なところもあり、アプローチを工夫したい。</p>	<p>・「行きたい大学」へ進学する生徒がさらに増えることよい。</p> <p>・調査書の部活動等の記載について、総合型でそれにより有利不利になることはないが、面接の際に話題が発展する可能性が広がる。</p>	<p>①説明会・講演会等の日程や内容を現状に即して見直した。</p> <p>②-1 生徒や保護者が十分に考えを深めて進路決定できるよう様々な情報提供を行った。多様化する進路活動への対応が引き続き課題である。</p> <p>②-2 模擬試験の有効活用を図り、また進路を見据えての資格取得を推奨した。効果は上がりつつあり一層の推進が求められる。</p> <p>③生徒の問題意識の喚起を図ることができたが、課題解決能力の育成には不十分なところが残った。</p>	<p>①引き続き情報提供や意識付けに有効な行事を企画し「行きたい」進路の実現に結びつけていく。</p> <p>②-1 一層確実な情報の収集・整理に努める。課外活動を進路活動に活かすための情報提供も行う。</p> <p>②-2 各教科と連携してさらに効果的な活用を目指す。</p> <p>③課題解決力の育成につながるアプローチを工夫していく。</p>
4 地域等との協働	<p>①地域・保護者等と連携・協働し、学校の教育力の向上を図るとともに、地域に親しまれる学校作りを進める。</p> <p>②コミュニティ・スクールの取組の推進により、地域の教育力の活用や産学協働体制の構築を図る。</p>	<p>①地域・保護者等と連携・協働し、学校の教育力の向上を図るとともに、地域に親しまれる学校作りを進める。</p> <p>②コミュニティ・スクールの取組の推進により、地域の教育力の活用や産学協働体制の構築を図る。</p>	<p>①生徒が地域の行事や学校説明会等に積極的に参加し、生徒の様子や活動を知ってもらおう機会を増やす。</p> <p>②地域の教育機関との交流の機会をもち、互いに学び合えるコミュニティづくりを進める。</p>	<p>①生徒が行事などに参加する機会が増え、地域が本校の活動などを認知する機会が増加したか。</p> <p>②地域の教育機関との交流の機会をもち、キャリア活動が活発にできたか。</p>	<p>①全3回の学校説明会での生徒の参加や地域行事への取り組みにより、本校生徒の様子を知ってもらおう機会となった。</p> <p>②学校見学や他校との共催行事などで地域との連携を進めることができた。</p>	<p>①時期の都合により地域行事への参加が少なくなつた。生徒会役員だけでなく、文化部等と連携した取組みが必要。</p> <p>②周囲に多くの教育機関がありキャリア活動には恵まれた環境であるため、さらに連携を深めていきたい。</p>	<p>・正月に開催する祭礼で販売するお酒のラベル(デザイン部作製)は好評である。</p> <p>・にこにこハーモニーについては学校の負担もあり、早めに意見をいただきながら進めたい。</p> <p>・PTAは今後も学校、地域と連携・共同し、主体性を持って実施していきたい。</p>	<p>①学校説明会や地域行事等への生徒の参加により、本校生徒の様子を知ってもらおう機会となった。本校の魅力を分析し、さらなる発信をしていきたい。</p> <p>②地域との連携を少しずつ進めることができた。地域の需要と本校生徒の需要をマッチさせ、さらに連携を深めていく。</p>	<p>①部活動や生徒会のさらなる活性化と、HPやSNSなどを活用し、本校の取組みや魅力を発信する。</p> <p>②環境整備事業ややまゆり鑑賞会等の運営を、PTAや地域と生徒の委員会が協働して継続していく。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>①校務におけるコンプライアンスの徹底と不祥事防止の徹底により、信頼に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>② 安心して快適な教育環境の整備のために、組織的・計画的な学校安全を推進し、激甚化・頻発化している自然災害や、事故・事件、犯罪などに備えて子どもたちが自らの安全を確保できる資質・能力を育成する。</p> <p>③働き方改革を一層促進するだけでなく、教師の個別最適な学びや協働的な学びを支える仕組みを構築し、教職員のウェルビーイングを図る。</p>	<p>①不祥事防止を徹底し、地域・保護者等から信頼される学校づくりを進める。</p> <p>②安心して快適な教育環境の整備のために、組織的・計画的な学校安全を推進し、激甚化・頻発化している自然災害や、事故・事件、犯罪などに備えて生徒たちが自らの安全を確保できる資質・能力を育成する。</p> <p>③各教職員が職務に責任と誇りを持ち、主体的に業務に取り組むことで、働き方改革の推進と教職員のウェルビーイングを図る。</p>	<p>①年間を通した計画的な不祥事防止研修に加え、外部講師を招いてワークショップ的な研修もを行い、意識の醸成を図る。</p> <p>②-1 防災訓練、防災講話、DIG訓練等を地域と連携を図りながら実施する。</p> <p>②-2 保健体育科と連携を図り、授業の中で心肺蘇生法等を実施する。</p> <p>③個々の教員が一人で悩みを抱えることがないよう、個別の面談やコミュニケーションの機会を増やし、雰囲気の良い職場づくりを行う。</p>	<p>①計画的な不祥事防止研修、及びワークショップ的な研修を実施することができたか。</p> <p>②-1 地域と連携しながら、訓練講和等を実施し、防災に備える体制が構築できたか。</p> <p>②-2 心肺蘇生法を適正に実施し、生徒が適切な方法を学ぶことができたか。</p> <p>③個別の面談やコミュニケーションの機会が増え、教職員のウェルビーイングが図れたか。</p>	<p>①計画的な不祥事防止研修は実施できたが、外部講師を招いたワークショップ的な研修は実施できなかった。</p> <p>②-1 防災訓練・講話、DIG訓練等を地域と連携を図りながら実施することができた。</p> <p>②-2 1年生の保健の授業で実習を含め、今後実施できた。</p> <p>③管理職と職員、職員相互のコミュニケーションが増え、主体的に業務に取り組む職員が増えた。</p>	<p>①外部講師を招いたワークショップ等も含め、職員の意見を聞きながらより効果的な研修の充実を図る。</p> <p>②-1 悪天候により防災訓練時に実施できないものがあった。次年度は実施したい。</p> <p>②-2 次年度も継続的に1年生の保健の授業で実習を含め、今後実施の予定である。</p> <p>③引き続き雰囲気の良い職場づくりに努めるとともに、仕事の効率化を図り、時間外労働を縮小に努める。</p>	<p>・学校運営協議会の制度ができて管理・運営の成果は上がっていると思うが、運営そのものは学校の負担になっていないか。本会そのものの運用について、現場を見据えた検討の時期ではないか。</p> <p>・学校側の評価は優秀であり、安心して任せられる。</p>	<p>①計画的な不祥事防止研修により職員の不祥事防止への意識の高揚が図られ、不祥事をおこすことなくなつた。風通しのより職場づくりに努めることができた。</p> <p>②-1 防災や安全に係る事業を計画的に行い、防災・安全意識を高めることができた。防災の実地訓練は天候に左右されるため、工夫が必要である。</p> <p>③職場アンケートから、情報共有や連絡・相談、協働・連携が概ねできており、引き続き雰囲気のよい職場づくりに努める。</p>	<p>①不祥事防止への高い意識を持ち続けるため、地域や同窓会等の人脈も生かし、外部講師を招いたワークショップ等の実施を検討していく。</p> <p>②-1 防災や安全に係る意識のさらなる高揚を図るため、より効果的な内容を精査していく。</p> <p>③個々の職員の適性を踏まえた人事配置に努め、個別面談や速やかな相談対応により、職員のウェルビーイングを図っていく。</p>